



クレマチス

9編、10編の但し書きには「アルファベットによる詩」とあります。詩編の中で最も長い119編には、アレフ^א、ベト^ב、ギメル^ג…レシユ^ד、シン^ה、タウ^וとヘブライ語のアルファベット22文字の名称が記されていて、詩がつづられています。詩の書き出しに、アルファベット順に言葉を選んだ詩編ですから、技巧的な詩と言えるかもしれません。9編は「ムト ラベンに合わせて」とあります。ムト ラベンの綴りは「息子の死」と推測されますが、「合わせて」となれば、楽器名とか、ボーイソプラノの歌などとも考えられるとのことですが意味は不明とのこと。17節の「ヒガ

ヨン」は楽器による間奏のためのための休符ということ。ヘブライ語は子音文字だけしかなく、8つの母音は子音の周りに印をつけて区別。書き順は右から左へ。東洋的です。

9編の詩人は わたしは心を尽くして主に感謝をささげ／驚くべき御業をすべて語り伝えよう(9:2) と、積極的な決意を述べています。御顔を向けられて敵は退き／倒れて、滅び去った(9:4)、あなたは御座に就き、正しく裁き／わたしの訴えを取り上げて裁いてくださる(9:5) と神の正しい裁きが敵に下ったということが感謝の理由です。そして いと高き神よ、わたしは喜び、誇り／御名をほめ歌おう(9:3) と歡喜の歌を歌ってそれを表します。神は訴えを取り上げ、すべての国々を公平に裁かれる。虐げられ、苦難を味わう貧しい人々は神に依り頼む時、見捨てられないと歌います。特に 主は流された血に心を止めてそれに報いてくださる(9:13) の箇所を、主イエスの十字架と復活を示すものとして、「讚美歌21」では325「キリスト・イエスは」を挙げています。原詩は14世紀のラテン語キャロル、曲は1708年の讚美歌集「ダビデの豎琴」の現存する唯一の曲とのこと。詩人の歡喜の思いが高らかに歌われ、喜びが伝わってきます。現在でも、復活節には全世界で歌われています。

参照 <https://play.hymnswithoutwords.com/christ-the-lord-is-risen-today-easter-hymn-6-verses-organ/>

また、裁きを求める貧しい人の祈りに合わせ、あなたの賛美をひとつひとつ物語り、御救いに喜び躍ることができますように(9:15)という思いが表現されてるような、軽やかなリコーダーとの合奏による、美しいジュネーブ詩編歌9があります。

参照 <https://www.youtube.com/watch?v=JClyDaDzR2Q&list=RDKw4Xfan0AzQ&index=6>

詩編10も「アルファベットによる詩」です。これは貧しい人、不運な人、みなしご、虐げられている人の祈りと言っていていいでしょう。彼らを苦しめる者の姿を明確に捉えています。

神に逆らう者は自分の欲望を誇る。食欲であり、主をたたえながら、侮っている。／神に逆らう者は高慢で神を求めず／何事も神を無視してたくらむ。／あなたの裁きは彼にとってはあまりにも高い。彼の道はどのようなときにも力もち／自分に反対する者に自分を誇示し／「わたしは揺らぐことなく、代々に幸せで／災いに遭うことはない」と心に思う。／口に呪い、詐欺、搾取を満たし／舌に災いと悪を隠す。(10:3) 神に逆らい、傲慢で貪欲、策略を用い、裏表のある人。巧言令色と言えるでしょう。苦しむ者は 心に思う／「神はわたしをお忘れになった。御顔を隠し、永久に顧みてくださらない」と(10:11) と思いつつ、神にすべてをゆだね、おまかせしますと訴えるのです。苦しむ者はいつの世も貧しく弱い人々です。「讚美歌21」の526「苦しみ悩みの」は16世紀の詩、曲を取り入れています。この詩編はバッハ《オルガン小曲集》のコーラル前奏曲によっても、親しまれています。

参照 https://www.youtube.com/watch?v=b9eo8c3HIE4&list=TLPQMDYwNTIwMjC4t-Jye_bGFw&index=2

参照 <https://www.youtube.com/watch?v=QrQfRJGLjjs>